

聖歌 622 夕べ雲焼くる

※へ長調のまま

①夕べ雲焼くる 空を見れば

主の来(きた)り給(たも)う 日のしのぼる

(くり返し) ああ神の前に われ勤(いそ)しまん

業(わざ)終(や)むる時の 間近き今

②灯火(ともしび)掲げよ 主の乙女(おとめ)ら

「花婿(はなむこ)ぞ」と言う 声聞きなば

(くり返し)

③その日をば待てる われらなれば

悩みも涙も など避(さ)くべき

(くり返し)

④嘆(なげ)きも涙も天(あめ)にはなし

御使(みつか)いの歌う 声聞(き)くのみ